

中学2年 国語科「二千五百年前からのメッセージ ～孔子の言葉～」

柏市立風早中学校 伊原 紘平

1. 単元目標

- 漢文を朗読して、古典の世界に親しむことができる。(知識及び技能)
- 漢文を通して理解したことや考えたことを、知識や経験と結びつけて、自分の考えを深めることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 調べ学習をもとに、「○○の『論語』」を作成し、自分の考えや思いを伝えようとしている。(学びに向かう力, 人間性等)

2. 情報活用能力育成をめざす単元づくり (全6時間扱い)

(1) 単元について

「孔子の言葉」は古代中国の思想家の孔子やその弟子たちの言行を記録した『論語』が出典である。『論語』は極めて簡潔な文章で書かれていることが多く、現代の私たちにも様々な事柄を深く考えさせる力を持っている。漢文独特の響きやリズムに注意して朗読し、古典の世界観を楽しみ、『論語』に示されたものの見方や考え方に対して、自分の経験を照らし合わせ、今後の自分の生き方について考え、深められるようにする。

(2) 学習計画

	時	学習内容	留意点
1 課題の設定	1	○『論語』について知り、漢文の訓読法について理解する。 ◎事前アンケート(Forms)	・「孔子の言葉」が現代にも多く残っていることを知る。
2 情報の収集	2	○『論語』を通して、どのような「孔子の言葉」が残っているのかを調べる。	・学校図書館から必要な情報を収集する。
3 整理・分析	3	○自分の経験や今後の人生において、心に留めておきたい「孔子の言葉」を見つけ出す。	・自分の経験や、今後に生かしていきたい教訓など、各自のテーマ設定をする。
	4 本時	○「○○の『論語』」と題し、自分が感銘を受けた「孔子の言葉」をスライドにまとめ上げる。	<本時展開参照> ・自分の思いや考えが伝わる内容のスライドとなるように指導する。
4 まとめ・表現	5	○発表原稿を作成する。	・作成したスライドに合わせた発表原稿をつくる。 ・発表練習を行う。

5 振り返り・改善	6	○自分が作成した「〇〇の『論語』」のスライドを班内で発表をする。 ◎章末アンケート実施 (Forms)	・テーマ設定の明確な理由を踏まえて、相手に伝わるように発表するように指導する。
-----------	---	--------------------------------------------------------	-----------------------------------------

3. 本時について (本時 4/6 時間)

(1) 本時の目標

○資料から情報を収集し、漢文を通して理解したことや考えたことを、知識や経験と結びつけて、自分の考えを深めることができる。(思考力・判断力・表現力等)

(2) 本時の展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入 3分	1. 【前時の学習を想起し、学習課題をつかむ】 ・『論語』に残された「孔子の言葉」について、どのような言葉があるのか再確認する。	●前時までに自分が調べた「孔子の言葉」を発表させる。
自分が感銘を受けた「孔子の言葉」をスライドにまとめ上げよう。		
展開 ① 12分	2. 【全体の学び】 <どのようなスライドにするのかを考える> ①どのようなテーマにするのか。 例. 失敗したときに思い返したい言葉 落ち込んでいる人に送りたい言葉 など ②テーマ設定の理由 ③感銘を受けた「孔子の言葉」の紹介 →どのような人におすすめの言葉なのか どんなときに読んでもらいたいのか どうしてこの言葉を選んだのか など ④参考文献の掲載	●全体に手本となるスライドの例を提示し、作成の手順について説明する。 ●書き下し文、訳、選んだ理由、参考文献は必ず明記させる。 ●【タブレット端末】あらかじめ、スライドのテンプレートを配布し、それをベース作成するように助言する。 ●【タブレット端末】班員に発表することを前提に見やすい資料を作成するように助言する。
展開 ② 25分	3. 【個の学び①】(個人活動) ・自分の端末でスライドの作成 <ポイント> →簡潔な内容 資料の見やすさ	
終末 10分	4. 【個の学び②】(ペア活動) ・作成したスライドの推敲 →相手に伝わりやすい内容 ・発表の準備 →書体の工夫や切り替え効果の追加	●ペアを作り、お互いが作成したスライドを添削し、構成や内容について意見交換をさせる。 ●次回発表する内容を確認する。



(3) 情報活用能力のプロセスと育成を図るポイント

課題の 設定	情報の 収集	○ 整理・分析	まとめ 表現	◎ 振り返り 改善
-----------	-----------	---------	-----------	--------------

◎まとめ・表現のポイント

- ①学校図書館を活用してたくさんの「孔子の言葉」に触れ、自分の経験や考えに結び付いた言葉を探し出す。
- ②その中から言葉の持つ規則性や類似性に焦点をあて、「なぜその言葉を選んだのか」という理由を明確にして、スライドにまとめ上げる。
- ③まとめ上げたスライドを用いて、班員や学級の前で発表を行う。その際、スライドはあくまでも視覚的資料であることに留め、発表のための原稿は別途用意しておく。
- ④発表者は、スライドを活用してどのような表現をすれば、自分の考えが効果的に相手に伝わるかを考える。
- ⑤発表の際は相互評価できるように、「評価シート」(右図)を用いて他者の発表の評価を行うとともに、自分の発表についても自己評価をする。

二千五百年前からのメッセージ⑦ —孔子の言葉—
()組 ()番 氏名

◎ 感想を受け、「孔子の言葉」を紹介しよう。
◎ 相手に伝わりやすい発表を心がけよう!
◎ あてはまるものに○をつけよう。
(A : ……大変あてはまる B : ……あてはまる C : ……あてはまらない)

	さん 発表内容はわかりやすかった。(理由が明確) 聞き取りやすい発表であった。(音量や速度) 今後の生活に生かしたいと思った。	さん 発表内容はわかりやすかった。(理由が明確) 聞き取りやすい発表であった。(音量や速度) 今後の生活に生かしたいと思った。
	A・B・C	A・B・C

◎ 今回の学習を通して①今までの自分と考えが変わったところ、②今後の生活に活かしていきたいことを書いてみよう。



図書を活用



学級での発表



班での発表

<参考文献>

- ・『絵で見てわかるはじめての漢文 四巻 論語』 (学研プラス)
- ・『親子で楽しむこども論語塾 その1』 (明治書院) ・『心を育てるこども論語塾』 (ポプラ社)
- ・『親子で楽しむこども論語塾 その2』 (明治書院) ・『心をみがくことば 論語』 (国土社)
- ・『親子で楽しむこども論語塾 その3』 (明治書院)
- ・『はじめてであう論語1 家族編』 (汐文社) ・『はじめてであう論語2 友だち編』 (汐文社)
- ・『はじめてであう論語3 学問編』 (汐文社) ・『現代人の論語』 (ちくま社)
- ・『壁を乗り越える論語塾』 (PHP研究所) ・『故事成語・論語・四字熟語』 (偕成社)
- ・『声に出してよみたい・こどもシリーズ こども論語』 (草思社)
- ・『子供と声を出して読みたい「論語」百章』 (致知出版社)
- ・『使う! 論語』 (三笠書房) ・『こども論語』 (草思社) ・『論語 金谷治訳注』 (岩波書店)
- ・『ビギナーズ・クラシックス 中国の古典 論語』 (KADOKAWA)
- ・『身近な出来事でわかる はじめての論語』 (岩崎書店)

実践を終えて

本単元では、『論語』という漢文教材を通して、「古典の世界に親しみを持ち、自分の考えを深め、その思いや考えを相手に伝えること」を目標に設定した。今回は、学校図書館を活用して多くの「孔子の言葉」に触れ、そこから当時と現代に通ずるものの見方や考え方の規則性や類似性の特徴を見つけ出し、スライドを用いて「感銘を受けた孔子の言葉」をテーマにプレゼンテーションを行った。以下がその結果である。

<事前アンケート>

「漢文を学ぶことが好きである」……「はい」 22%

「漢文を学ぶことに興味がある」……「はい」 34%

「漢文の訓読が得意である」……「いいえ」 46%

<事後アンケート>

「漢文を学ぶことへの意欲や関心が高まったか」

……「はい」「どちらかと言えば高まった」 89.5%

「漢文の訓読法の理解が深まったか」

……「深まった」「どちらかと言えば深まった」 68.7%

これらを踏まえると、『論語』を通して、古くから伝わるものの見方や考え方に触れることで、自分の考えを深めることができ、古典の世界に親しむことについては、概ね達成できた。しかし、訓読法の理解を深めるという点に関しては課題が残った。2学年では、1年次の学習に加え、レ点や一・二点という難解な訓読法を用いる場合や置き字等の新しい知識を理解する必要があるが出てくる。単元末に、漢文訓読の小テストを行うなど、知識を深める場面があってもよかったと考えられる。

プレゼンテーション能力を育成することは、同時にコミュニケーション能力を身に付けることにつながると考えられる。自分の考えに具体的な根拠を持って、相手に伝わりやすい資料を提示し、工夫して話すことは、これからの社会を生き抜くためには、重要な能力だといえる。今回は学校図書館の活用を中心に調べ学習を行ったが、インターネット上の情報を活用する場合には、正しい情報を整理・分析し、それを表現する力を身に付けることが必須である。日々変化する社会に対応できる子どもたちを育成するためにも、日常的に、プログラミング教育に触れる機会を増やし、継続して取り組むことで、未知の課題を解決することができる資質や能力が身に着くように努力を続けていきたい。